

学校経営推進費 評価報告書（2年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程
取り組む課題	生徒の自立支援
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の自己有用感、挨拶、マナー、コミュニケーション能力、職業観等の向上（学校教育自己診断） ・ ボランティア活動に対する意識の向上 ・ 中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上
計画名	地域連携による復興支援プロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>2 生徒理解の促進と自己有用感を高める取組みの強化</p> <p>（2）特別活動、生徒会活動、部活動等を通じて、生徒の自己有用感を醸成するとともに集団や学校への帰属意識を高める。</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 生徒会行事、生徒の自主活動、ボランティア活動や地域連携活動の継続、発展をめざす。</p> <p>※ 地域・企業等と連携した「ゆめ・チャレ」等の就労体験活動のさらなる発展充実、参画企業と動員生徒を毎年5%拡張</p>
事業目標	<p>本校生徒に自信を持たせ、コミュニケーション能力を身につけさせる。また、基本的な生活習慣を身につけさせ、進級・卒業率を上げることや、中途退学率を減らす必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統地場産業を学び、「ものづくり」を通じて地域に誇りを持ち、自分にも誇りを持つ。 ・ 地場産業を通して学校外で様々な職業体験をし、基本的な生活習慣を身につけ、コミュニケーション能力等をつける。 ・ ボランティア活動に積極的に参加し、他者から感謝されることにより自己有用感を持つ。 ・ 被災地支援により得た知識を活かし、地域の防災活動の拠点となり、自助・共助・公助の精神を養う。
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復興支援用材料費（打ち刃物） ・ 復興支援記録用ビデオカメラ ・ バイオディーゼル発電機一式 ・ ドローン一式
取組みの 主担・実施者	<p>プロジェクトリーダー：首席（進路指導主事兼任・学校設定教科「堺学」主担）</p> <p>復興プロジェクト企画・運営：学校設定教科「堺学」担当教員</p> <p>地域（自治会・小中学校等）との連携推進：進路指導部</p> <p>生徒に対する諸活動：生徒会活動部</p> <p>廃油発電機・電気自動車作成・改良及びドローン担当：機械系・電気系職員</p>
本年度の 取組内容	<p>昨年度に引き続き「復興支援プロジェクト」として支援の輪を広げ活動をおこなった。被災地との情報交換を密にし、一人でも多くの生徒をプロジェクトに参加させ、「線香」と「包丁」及び「支援品」の寄贈数を増やした。</p> <p>家庭や食堂等で処分に困っている油を使用して電気を作ることのできる「バイオディーゼル発電機」を近隣地域や被災地に紹介し、地域の防災活動において役立てることができた。</p>

	<p>昨年度に引き続き、ドローンによる空撮を行い、地域の方々と避難経路を確認し、話し合った。活動をビデオカメラで記録し、それをもとに講演活動をおこなった。</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒の自己有用感、挨拶、マナー、コミュニケーション能力、職業観等の向上 学校教育自己診断、「将来の進路や生き方について考える機会がある」で肯定率 70%以上 ② ボランティア活動に対する意識の向上 ボランティア活動や被災地の支援への生徒の参加状況 ③ 中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上 活動に興味をもてば不登校が減り、それが中退率を抑え、進級率向上につながる（中退率 10%未満を維持する）。
<p>自己評価</p>	<p>「復興支援プロジェクト」による被災地訪問を充実させることができた。これらの活動を通して生徒は自己有用感、挨拶、マナー、コミュニケーション能力を獲得し就職活動に大いに活かすことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校教育自己診断、「将来の進路や生き方について考える機会がある」で肯定率 76%（H30 年度 73%）……………（○） ② 被災地支援の募金を文化祭で企画したところ、多くの生徒が活動に賛同し、意識の高さを感じた。……………（○） ③ 中退率は H30 年度 7.2%、R1 年度 8.3%と 10%未満を維持できている。……………（○）
<p>次年度に向けて</p>	<p>地域連携による「復興支援プロジェクト」は、東北をはじめとして、北海道胆振東部地震被災地、西日本豪雨被災地、九州北部豪雨及び熊本地震被災地などの訪問を引き続きおこない、支援活動を続ける。「バイオディーゼル発電機」は、地域の方々や被災地の方々が必要を感じているので、次年度も製作を続けたいと考えている。</p> <p>公道を走行することをめざす「電気自動車」は、災害の際に地域の方々と避難所に先導出来るような改良が必要である。「ドローン」に関しても、飛行時間を増やして、将来的に「避難経路マップ」を作製することを目標としたい。</p> <p>旅費以外の予算は単年度配当なので、予算内で目標達成に向けて、学校と地域が一丸となって、「微力だけれども無力ではない」をスローガンに前進する所存である。</p>